

社長も辞任！「ブリヂストン・ファイアストーン訴訟」  
五〇〇億ドル問題発言の米弁護士、独占インタビュー

# 「われわれはタイヤ欠陥隠蔽の 重大な証拠を握っている」

ジャーナリスト  
徳本栄一郎=文  
text by Eiichiro Tokumoto

## ブリヂストン株暴落の 張本人を直撃

走行中の車のタイヤ表面が突然剥がれ落ち、制御不能となって宙を舞う。ブリヂストンの米子会社、ブリヂストン・ファイアストンの「欠陥タイヤ」問題は昨年夏、米国の消費者に大きな衝撃を与えた。

リコール(無料の交換、回収)される予定のタイヤは六五〇万本。その費用の重圧が日本の親会社へのしかかる。それに加え、全米で事故の被害者による損害賠償訴訟が頻発している。

その原告側弁護士の一人在、ケネス・モール氏だ。シカゴに事務所を構え、過去にタバコやホットドッグなど企業への製造物責任訴訟で名を馳せてきた。今回は米国、サウジアラビア、南米などで訴訟を呼びかけ、世界的規模の集団訴訟を指揮する。

わが国でモール氏の名が知られたのは



タバコ訴訟など、PL関連の集団訴訟で名を馳せるケネス・モール氏。

は昨年二二月、米紙が「ファイアストーンへの賠償請求額が五〇〇億ドルに達する」という彼のコメントを報道したときだ。この結果、東京証券取引所でブリヂストンの株価が暴落、同社の海崎社長が緊急会見する騒ぎとなった。

日本の有力企業の命運を握る欠陥タイヤ・スキヤンダル、その行方をシカゴでケネス・モール弁護士に聞いた。欠陥タイヤ訴訟でファイアストーンへの賠償請求額が五〇〇億ドルに達するとの報道は、ブリヂストンの株価急落を引き起こしました。「今回の一件が明らかに becoming from, 誰かがファイアストーンへの賠償請求額

は五〇〇億ドルと示唆する発言をしてきた。(USAトゥデイ紙の取材を受けたとき、記者がその金額に対するコメントを求めた。私は『その金額もありうる』と答えた。それがあの記事につながったのだと思う」

ブリヂストンは、悪意に満ちた無責任な発言と非難していますが。「現時点で、賠償金額がいったい、いくらになるか誰もわからないはずだ。欠陥タイヤの最終的なリコール費用はいくらか、損害賠償の請求額はどこまで膨らむのか、まだ予測がつかない段階だ。この種の案件が生じた場合、米国では企業が犯した行為と保有資産に応じて金額が決定される」しかし、ブリヂストン側は賠償に必要な額は四億五〇〇〇万ドルと見て特別損失で引き当てています。「その『四億五〇〇〇万ドル』がいったい何を意味するのか、考えてみたほうがいい。まだ損害賠償訴訟には一銭も払っておらず、リコール拡大要求にも応じていないではないか。米国内で回収

されたのは一五億のタイヤだけだ。一六億、一五・五億などは手がつけられていない。また彼らが六五〇万本のリコールを前提に四億五〇〇〇万ドルと言ってるなら、私は『そんな金額ではまったく不足だ』と断言する」

リコールは不十分だった、欠陥タイヤの回収費用はますます膨らむというわけですか。

「そのとおりだ。海外の一六億タイヤは回収しながら、彼らは米国内ではやってない。欠陥の恐れがあるのは一五億だけではない、との政府機関の報告書があるのだ」

ファイアストーン側は、リコールを拡大しても必ずしも安全性の向上にはつながらないと言っています。

「馬鹿馬鹿しい。昨年八月からのリコールで多くの人命が救われたのだ。対象を広げれば、より多くの命が助かる。これによって発生するリコール費用などは問題ではない。大切なのは人命を救うことだ。ファイアストーンとフォードが自分たちの非を認め、すべてのタイヤをリコールする。それがわれわれの訴訟での勝利を意味する」

## 莫大な和解金は リコール拡大回避策か

昨年八月、ブリヂストン・ファイアストーンはタイヤのリコールを正式に発表した。対象はフォード・モーターが